



◆当面する重点作業について

1. モモハモグリガや果実腐敗病等、病害虫の越冬量を少なくするため園内の清掃を行う。
落葉は集め焼却するか、土中に埋める。落果した果実は、土中に埋める。
2. 土作り・基肥の施用を行う。
3. せん孔細菌病の発生が特に発生が多かった園は、**ボルドー液散布は4回実施する。**
前回のもも・ネクタリン情報を参照する。
強風降雨(台風)による落葉痕からの感染が多いので、落葉した後に散布を行う。
なお、各地で農薬の飛散による苦情が寄せられます。薬剤散布には十分ご注意ください。
農薬散布を行う際は、風の弱い時に、風向きに気を付けて散布しましょう。
散布の際は周囲の人・家・車等にご注意ください。
住民等へ周知するなど周辺環境への配慮にも心がけましょう。

◆基肥の施用について

1. 施用時期:10月下旬～11月初旬
※施用時期が遅れると、生理落果・核割れ・徒長・遅伸びにつながる。
2. 施用資材及び施用量
 - ①グリーン長野果樹専用有機入り72 ⇒ 10a当り4袋
 - ②果樹の力 ⇒ 10a当り2袋
3. 留意事項
 - ①徒長枝の多い若木や樹勢の強い樹は、グリーン長野果樹専用を減らすか施用はしない。
また、落葉が長引き一斉でない樹も施用量を減らす。
 - ②施肥後は軽く中耕する。(軽くとは5～6cmの深さ)
※草生栽培園は中耕しなくても孔隙があり、肥効が高く出る。
 - ③堆肥等を使用する場合は、窒素分量を計算し、グリーン長野果樹専用の施用量を減らす。
 - ④ネクタリンは強めの樹勢を維持したいので、グリーン長野果樹専用有機入り72を2割(10a当1袋)程度多めに施用する。
 - ⑤マンガン欠乏(トラ葉)の発生園では基肥に硫酸マンガン10a当り10kgを施用する。
 - ⑥ホウ素欠乏園では、硼砂を1樹当り200g施用する。